

令和8年度シラバス（家庭）

学番22 県立阿賀黎明高等学校

教科（科目）	家庭（家庭基礎）	単位数	2単位	学年（学類）	1学年
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改定版 家庭基礎 持続可能な未来をつくる」				
副教材等	家庭基礎学習ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自分と社会の関係性を見つめ、他と協働しながら取り組む力を育成します。</p> <p>②複雑化する社会や地域に関心を持ち、様々な考えを受け入れる力を育成します。</p> <p>③好奇心をもって自ら学び続け本質を見極めようとする姿勢と力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①あらゆる進路に対応できるカリキュラムを設定します。</p> <p>②少人数制により個々にあったきめ細かな指導を行います。</p> <p>③地域と連携し、地域資源を活用した教育活動を行います。</p> <p>④生徒が興味をもった題材を地域の大人が伴走しながら探究するプロジェクト学習に取り組みます。</p>

2 学習目標

<p>生活の営みに係る見方や考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活の課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>(2) 生涯を見通して生活を設計し創造する力、様々な人とつながりともに生きる力、健康で文化的な生活をつくり営む力を身に付けるようにする。</p> <p>(3) 生活上の課題を見つけ自ら解決する力を身に付ける。</p>
--

3 指導計画

月	単元	教材又は項目	学習活動（指導内容）	評価方法	時間
4	これからの生き方と家族	1節 生涯の生活設計 2節 家族・家庭と社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達の視点から、青年期の発達課題を理解する。</li> <li>・生活における価値観や生き方が多様化していることを認識し、自己の価値観に基づく生活設計の必要性を理解する。</li> <li>・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。</li> <li>・現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> </ul>	6
	生と生きるに	社会保障制度と社会的連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支え合って生きる社会の考え方について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> </ul>	1
5	充実した生涯へ	超高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を見通して高齢期を捉えることができるようになる。</li> <li>・近年の高齢者福祉の基本的な理念や高齢者福祉サービスなど代表的なものについてふれた上で、社会の現状と今後の解決すべき課題について理解する。</li> <li>・黎明学舎、社会福祉協議会による連携授業を行う。（社会福祉協議会の方から、阿賀町の高齢化の実態や現在抱えている課題などについて講義をしていただく。（1時間））</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> </ul>	2
	次世代をはぐくむ	1節 子どもの発達 2節 子どもの生活 3節 子育て支援と福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもはこれからの社会を築いていくという視点から、子どもを生き育てることの意義や地域の一員として子どもの成長に関わるこの意味について考えることができる。</li> <li>・乳幼児期は、その発達段階に応じた親の働きかけが重要であることを親の保育態度と関連付けて理解できるようにする。</li> <li>・家庭保育と集団保育を取り上げ、子どもの発達と環境との関わりについて理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> </ul>	5
6	食生活をつくる	1節 人の一生と食事 2節 栄養と食品 3節 食生活の安全のために 4節 食生活をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の食生活を振り返り、健康や生活習慣に直結する食事について学ぶ意欲を高める。</li> <li>・食事の役割を認識し、食が心身を育む上で大切なものであることを理解する。</li> <li>・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。</li> <li>・健康な生活を送る上で必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。</li> <li>・各食品の保存方法、食中毒、食品添加物について理解する。</li> <li>・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。</li> <li>・食品群別摂取量のめやすを活用し、ライフステージに合わせた食事計画を立て、1日3食のバランスがとれた形で作れるようにする。</li> <li>・食品の選択・計量・器具の扱い、包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> <li>・調理実習の取り組み（行動の確認）</li> </ul>	6
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各食品の保存方法、食中毒、食品添加物について理解する。</li> <li>・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。</li> <li>・食品群別摂取量のめやすを活用し、ライフステージに合わせた食事計画を立て、1日3食のバランスがとれた形で作れるようにする。</li> <li>・食品の選択・計量・器具の扱い、包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> <li>・調理実習の取り組み（行動の確認）</li> </ul>	8
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各食品の保存方法、食中毒、食品添加物について理解する。</li> <li>・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。</li> <li>・食品群別摂取量のめやすを活用し、ライフステージに合わせた食事計画を立て、1日3食のバランスがとれた形で作れるようにする。</li> <li>・食品の選択・計量・器具の扱い、包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> <li>・調理実習の取り組み（行動の確認）</li> </ul>	6
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる背景を持つ人々がともに支え合いながら生きていくことの必要性、関連する現代の社会の現状について理解する。</li> <li>・ノーマライゼーションの理念を土台にして、地域のバリアフリーやユニバーサルデザインなど具体的事例を通して考察する。</li> <li>・黎明学舎、社会福祉協議会、障害者福祉施設による連携授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> </ul>	7

10	衣生活をつくる	1節 人の一生と被服 2節 被服材料と管理 3節 これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の持つ保健衛生的な機能、社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。</li> <li>・自分の身の回りの布がどのような繊維でつくられているかに関心を持つようになる。</li> <li>・洗濯のしくみ、被服の手入れと保管について理解する。</li> <li>・衣生活の継承と創造、持続可能な衣生活について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> </ul>	7
11	住生活をつくる	1節 人の一生と住まい 2節 住生活の計画と選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解する。</li> <li>・人生における各ライフステージに必要とされる居住条件と住まい方について考える。</li> <li>・自然環境や社会環境と住生活の関連について調べ、今後の住生活のあり方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> </ul>	7
12	経済生活をつくる	1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。</li> <li>・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。</li> <li>・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていくという態度を養う。</li> <li>・消費者は、生産者や行政に自分たちの意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。</li> <li>・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。</li> <li>・消費行動を通して社会に参画することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> </ul>	5
1				<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> </ul>	4
2 3		生と暮らしている間に	社会保障制度と社会的連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる背景を持つ人々がともに支え合いながら生きていくことの必要性、関連する現代の社会の現状について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート（記述の点検）</li> <li>・発表の様子（行動の確認）</li> <li>・プレゼンテーション（行動の確認）</li> <li>・グループ活動（行動の確認）</li> </ul>

「1単位時間は50分」

70

#### 4 評価の観点の趣旨

観点	(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

#### 5 評価方法

観点	(1) 知識・技能 (40%)	(2) 思考・判断・表現 (30%)	(3) 主体的に学習に取り組む態度 (30%)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査等の筆記試験</li> <li>・実習・作品の技能評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査等の筆記試験</li> <li>・ワークシート</li> <li>・学習ノート</li> <li>・プレゼンテーションにおける表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査等の筆記試験</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・授業での発表の様子</li> <li>・課題・レポートの記述</li> </ul>

#### 6 担当者からの一言

家庭科の授業では、生活の営みに係る見方や考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指しています。